

構造物の状況及び安全確保のための措置 (H31.4~)

学校名	建物名称	棟番号	のべ床面積	建築年度	最小Ia値	1階Ia値		2階Ia値		3階Ia値		4階Ia値		5階Ia値		Co強度採用値(N/mm ²)					安全性の確認状況	完了までの安全対応案	対応方法・対応年度					備考		
						X方向	Y方向	X方向	Y方向	X方向	Y方向	X方向	Y方向	X方向	Y方向	1階	2階	3階	4階	5階			2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)			
奈良朱雀高校	教室管理棟	18	3,219	S42	0.21	0.30	0.36	0.25	0.21	0.27	0.21	0.35	1.06	0.39	0.23	17.2	18.0	15.4	16.8	22.5	・補強可能、X・Y方向ともに耐震性がなく、全体的に低い ・特に危険な柱が1~3階に存在し、部分的崩壊の可能性あり ・5階上部の塔屋部分も耐震基準不足	仮設校舎を設置(前倒し) 設置までの間、補強工事を応急実施	一部補強	補強	仮校舎					
	教室管理棟	19	2,152	S42	0.18	0.30	0.62	0.28	0.18	0.34	0.76	0.61	1.18			15.4	14.1	16.1	20.4		・補強可能、X方向に耐震性がなく、特に2階が低い、Y方向には、特に危険な柱が2階に存在し、部分的崩壊の可能性あり ・階段室塔屋部分も耐震基準不足	補強	一部補強	仮校舎						
奈良高校	管理特別教室棟	1	2,605	S39	0.32	0.47	0.37	0.35	0.48	0.57	0.32					17.6	15.6	16.0		・補強可能、X・Y方向ともに耐震性がなく、特にX方向に低い ・2~3階に極脆性柱がある ・特に危険な部分はないが、バランスの良い補強が必要	仮校舎に普通教室を先行移動、2~3階の極脆性柱4本にスリット工を実施 階段室の窓等一部開口部を閉塞し壁にして、強度を向上	応急補強								
	管理教室棟・普通特別教室棟	2-1~2-2	2,889	S41	0.17	0.27	0.49	0.26	0.36	0.30	0.44	0.29	0.51			16.6	15.8	9.4	10.3		・補強不可、XY方向に耐震性がなく、特にX方向に低い ・特に危険な柱が1階の大半に存在、その断全体が崩壊する可能性がある、2~3階は廊下側に危険な柱があり部分崩壊の可能性あり ・コンクリート強度が低く、中性化が進み構造物のコンクリートとしては劣化が認められる	仮校舎を設置 設置までの間、他施設(旧城内校舎)を使用	使用停止	他施設へ入	仮校舎					
	普通特別教室棟	3	1,692	S41	0.28	0.28	0.69	0.30	0.64	0.53	0.70	0.40	0.94			11.2	13.4	20.6	11.7		・補強不可、X方向に耐震性がなく、特に1階で低い ・2階に連続する特に危険な柱があり部分崩壊の可能性あり ・コンクリート強度が低く、中性化が進み構造物のコンクリートとしては劣化が認められる	仮校舎を設置 設置までの間、他施設(旧城内校舎)を使用	使用停止		仮校舎					
	校舎棟(渡り廊下)	4	51	S41	0.11	0.28	0.11	0.85	2.02							11.2	16.7				・補強不可、XY方向ともに1階で耐震性が低い ・1階柱部分で崩壊の可能性あり ・ただし、基礎から転倒することはない	使用	使用停止							
郡山高校	屋内運動場	7-1~7-2	2,277	S43	0.05	X方向全体	Y方向全体	X2A	X2B	X3AB	X4	ゾーンY1	Y2AB	Y3	Y方向全体	17.6	15.2	17.6		・補強可能 ・特に南北型にある独立柱のY方向(南北)に耐震性が低い ・更に東西型にある独立柱についてもX方向(東西)に耐震性が低い		使用停止		代替施設						
	管理特別教室棟	101	2,108	S43	0.34	0.80	0.51	0.76	0.45	1.13	0.73	(0.63)	(0.58)	(0.60)	(0.60)	(0.88)	(1.01)	(南側ゾーン)	(北側ゾーン)	19.5	11.0	12.5	・Y方向は、1階で下層壁掛けによる危険な柱が2箇所存在 ・2階、3階でコンクリート強度が低く、追加検討が必要	Ia値の低いゾーンの特別教室を 使わず、高軸力を受ける1階柱を 応急補強	応急補強	応急補強	応急補強			
郡山高校	特別教室棟	107	349	S44	0.56	0.56	1.29	1.40	2.52							19.5	21.0			・2階建てであり、構造体の数目的な面はない ・あえて言えば、1階のコンクリートブロック壁の配筋が躯体と定着されて以下場合に壁の破壊の危険がある	1階コンクリートブロック壁を鉄骨で 応急補強	応急補強	校舎利用							
	特別普通教室棟	134	1,249	S55	0.61	0.80	1.11	0.61	1.12	1.19	2.17					24.0	24.0	24.0		・塔屋がX方向で破壊する可能性あり ・Ia値-0.6以上のため、一般的には重量、崩壊する可能性は低いと判断される	屋上の立入り禁止 受水槽の水量減による重力の 軽減	使用停止								
生駒高校	屋内運動場	27-1~27-2	955	S39	0.35	X方向全体	Y方向全体	ゾーンY1	ゾーンY2	ゾーンY3	ゾーンY4	ゾーンY5				17.6	17.6				・別添体育館があるため使用 停止済	使用停止	設計	補強					第2体育館	
郡山高校	屋内運動場	8	439	S1	0.04	X方向全体	Y方向全体	ゾーンY1A	ゾーンY5A	ゾーンY13A						21.0					・別添体育館があるため使用 停止予定	使用停止	設計	除却					第2体育館	
	特別教室棟	16	630	S35	0.32	0.36	0.32	0.62	0.48							10.5	10.0				・塔屋の倒壊の危険性が高い、低強度コンクリートで危険度が 高い。	理科実験のみに使用制限、別校舎 改修による教室確保後、完全使用 停止	使用停止	改修					改築	
山辺高校	管理教室棟	4	1,069	S42	0.28	(1階)	(1階)	(2階)	(3階)							24.8	16.8	14.6	18.6	・補強可能、X方向に耐震性が低く、特に1~3階の廊下側柱で部 分崩壊の可能性 ・Y方向では地下廊下の2カ所の柱について対応が必要	仮校舎を設置 設置までの間、 校内他校舎で対応	使用	設計	仮校舎					吉野建 (地階あり)	
	管理教室棟	5	1,121	S43	0.42	0.42	0.43	0.45	0.90	0.58	1.33					11.9	14.4	12.2		・玄関ポーチ柱が崩壊の可能性がある。 ・1階X方向、Y方向で危険な柱があり、コンクリート強度が低い、	仮校舎設置までの間、トイレ等確保 できないためプレハブ事務所を設置 し管理部門を移動	使用停止	設計	改築						
	管理教室棟	6	809	S44	0.27	0.32	0.92	0.27	0.78	0.41	1.63					13.6	10.1	11.0		・補強不可、X方向に耐震性がなく、特に2階の強度が低い柱が 危険、1~3階の柱も強度が低く同様に問題である ・コンクリート強度が低い	仮校舎を設置 設置までの間、 校内他校舎で対応	使用停止		改築						
磯城野高校	特別教室棟	5	1,040	S41	0.35	0.40	1.05	0.35	1.02	0.89	1.85				14.8	8.9	15.7			・1階X方向に危険な軸壁付き柱あり、変形能力も低い、 ・2階のコンクリート強度低く、1・2階の柱の大半が脆性的、	理科室、書道室等他教室併用 により使用停止	使用停止	設計	改築						
大宇陀高校	管理特別教室棟	1.27	1,110	S43	0.21	0.21	0.51	0.23	0.42	1.31	0.42				12.2	8.2	8.2			・補強不可、X方向に特に危険な柱が1・2階の2カ所に存在し、 1・2階で部分崩壊の可能性あり ・コンクリート強度が低く、中性化が進み構造物のコンクリートとし ては劣化が認められる	仮校舎を設置 設置までの間、 校内他校舎で対応	使用停止	設計	仮校舎					改築	
	普通教室棟	3	1,900	S43	0.30	0.30	0.71	0.35	0.87	0.56	1.45					10.5	10.7	10.7	11.0	11.9	9.8	・全層が低強度コンクリート、 ・1階に危険な柱が多数あり崩壊する可能性があり、2~3階に 部分崩壊の危険性が高い柱がある。	1階の第2階補強要柱0本を斜管支柱 等で補強、1~3階の補強付き柱 9本にスリット工を実施	応急補強		改築				
玉寺工業高校	格技場	7	318	S3	0.38	ゾーンX1	ゾーンX2	ゾーンX3	ゾーンY1	ゾーンY2	ゾーンY3					9.8					使用頻度が少なく使用停止予定	使用停止								
	教室等	2	2,196	S37	0.54	0.70	0.56	0.92	0.67	1.27						14.5	13.7	10.7			・危険性は低い、1階に極脆性柱、多くのせん断柱があり、3階の コンクリート強度が低い、 ・屋上塔屋は補強が必要、	1階の極脆性柱6本にスリット工、1~3 階に連続するせん断柱4本を補強、屋上 は立入禁止	応急補強		改築					
高田高校	屋内運動場	21.25	989	S39	0.58	ゾーンa	ゾーンb	ゾーンc	ゾーンd	ゾーンe	ゾーンf	ゾーンg	ゾーンh	ゾーンi	ゾーンj	9.7	10.5				・X方向の2階で耐震性能不足、コンクリート強度不足で一部中性 化も進んでいる。 ・Xaゾーンの柱の補強により確実に安全性は向上する。	2階の3本の柱に水平ブレース 等で補強	応急補強	設計	改築					
	普通特別教室棟	20-1~20-2	2,275	S40	0.37	0.37	0.96	0.40	1.14	0.49	1.65					22.0	21.0	22.0			・X方向の各階で耐震性能不足、極脆性柱があり変形能力が低い ・1階に危険な柱が多数あり崩壊する可能性があり、特に1階がIa値が低く危 険、2階に存在し部分崩壊の可能性あり、特に1階がIa値が低く危 険、	1階の極脆性柱1本のスリット工、屋上 がラフットの撤去を先行実施、屋上使用 禁止	応急補強	使用停止	補強	仮校舎				

※Ia値0.7未満は補強が必要(文部科学省通知) 0.8未満は地震に対して倒壊・崩壊の危険性があり、0.3未満は倒壊・崩壊の危険性が高い
※Co強度13.9N/mm²以上あるものを原則として耐震改修(管轄課対応方針)